

令和6年度 第1回 国土交通省大阪航空局 入札監視委員会

審 議 概 要

開催日及び場所	令和6年6月17日（月） 大阪航空局 B・C会議室	
委 員	委員長 竹林 幹雄（神戸大学大学院教授） 委 員 増田 達也（大阪工業大学客員教授） 委 員 定岡 由紀子（弁護士）	
審議対象期間	令和5年10月1日～令和6年3月31日	
審議概要		
1. 報 告	入札・契約手続きの運用状況について	
2. 抽出案件	総件数 3件	
	(1) 工 事	一般競争（総合評価落札方式）1件
	(2) 建設コンサルタント業務等	一般競争（総合評価落札方式）1件
	(3) 役務の提供及び物品の製造等	随意契約（公募随意契約）1件
委員からの意見・質問、それに対する大阪航空局の回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	抽出した3案件について、参加条件の設定、資格の特定等について審議し、問題無いと判断した。	

審議概要（別紙）

2. 抽出案件

意見・質問（委員）	回答（大阪航空局）
（工事） ○ 総合評価委員会というのはこの委員会みたいに任命され、招集が掛かるのですか。 ○ 賃上げの表明ですけれど、パーセンテージは大企業が3%、中小企業が1.5%ということで、これは負担能力で差が付いているのだろうと思うのですけれども、このパーセンテージというのはどこで決まっているのですか。 （建設コンサルタント業務等） ○ 空港脱炭素化について太陽光発電が前面に出ているが、今政府で進めている経済安全保障で太陽光パネルに関して言うと、確か市場の7割以上はどこかの国でしか作っていないはず、ヨーロッパでもこの間ものすごく叩かれていましたけれど、大丈夫なのでしょうか。 太陽光パネルは皆が思っているよりもはるかに高いライフサイクルコストが掛かり、廃棄にもかなりお金が掛かります。ライフサイクルコストの話はすごく大事で、要は持続可能性の問題になってきます。 今イギリスは水素でやっていますし、ベルギーもそうです。そういった形に切り替えて自前でなんとか調達できるところでやっているの、そこはちょっと考えた方がいいかなというのがすごく気になった。 （役務の提供及び物品の製造等） ○ 大阪局管内であり離島に設置しているのが結構多いでしょうが、メンテナンスの頻度は。昨今非常に人員が大変というのはあるので、そのあたりどうなっているのかなと。	○ 外部の先生方にテーマ、評価項目や加点など役所だけの判断ではなく、透明性を確保するために意見を聞きながら行っています。 ○ 国土交通省より通達がでております。 ○ 本省と調整しながら進めていきたいと思います。 ○ VOR/DME施設は、大阪局管内49ヶ所に配置しており、対馬のほか、沖縄や鹿児島島の離島にも多数配置しています。 今回は老朽化更新であり、更新周期は

	13 年から 15 年ぐらいを目処に老朽化度合いを考慮し優先順位を付けて更新を行います。 多数ある施設が同時に障害になるケースはあまりなく、現行の人員で施設管理できています。
--	---